

授業者も参加者も創る!!高まる!!広げる!! 西部の国語の未来へバトンをつなぐ

令和2年11月発行
西部教育事務所

大方中学校で開催された「第2回 授業づくり講座」の様子を紹介します。

～教材研究会 編～

(令和2年9月18日(金) 黒潮町立大方中学校)



西部管内の
講座関係のHP

【単元名】「字のない葉書」を読んで、文章構成の意図を解き明かそう（第2学年） 【授業者】澤近 史拓 教諭（黒潮町立大方中学校）

提案：中心となる指導事項〔思考力、判断力、表現力等〕C 読むこと 工
観点を明確にして文章を比較するなどし、文章の構成や論理の展開、表現の効果について考えること。

協議②：生徒が主体的に取り組める言語活動とするためには？

- ◆「構成」と「表現」のどちらに着目させるのかを、明確に示す。
- 構成に着目させるのであれば、他の作品（『盆土産』等）と対比させた方が効果的ではないか。
- 読む順序を工夫することで、構成に着目させやすくなるのではないか。

「この教材で指導するなら、指導事項は C 工 でいいか。」

これは、協議②で最適な言語活動を考える際に生まれた疑問です。

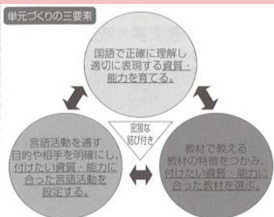
- 指導事項は C 工（登場人物の言動の意味などについて考え、内容を解釈する）の方が適切ではないか。
- 構成に着目させても、最終的には言葉や表現に戻る必要があるのではないか。
- 前半はC 工、後半はC 工に重点を置くなど、指導計画を工夫すべきではないか。

POINT!

教材分析で、「※単元づくりの三要素」の結び付きを確かなものにする。

国語科の単元づくりでは、「身に付けたい資質・能力」と、最適な「言語活動」「教材」という三つの要素が結び付いていることが重要です。本会では、教材をじっくり分析する中で、「指導事項はこれでいいのか」という疑問が生まれました。三要素の密接な結び付きが実感された場面です。

今回のように、教材分析で教材の特徴をつかむことは、資質・能力（別の場面でも活用できる力）を具体的にイメージし、既習事項の系統性を考えて単元をつくることにつながります。教師自身が教材に向き合い、自分なりに分析を行う意味はここにあります。



※『新教育課程を活かす 能力ベースの授業づくり』（齊藤一弥・高知県教育委員会編著 2019）P28 より

文学的な文章の 構成の意図や効果 を考える

説明的な文章と比べて、文学的な文章の「構成」に着目することは、これまで少なかったのではないのでしょうか。『字のない葉書』において、その構成の意図や効果を考えることは、作品を深く読むことにつながるのではないかと、という新たな視点が、会場校から提案されました。

協議①：前半のエピソードがある意味や、筆者の意図は？

- ◆様々な対比（ギャップ）を際立たせる

対 比	前 半	後 半
手紙と葉書	他人行儀な父からの手紙	父の愛情が直接的に感じられる葉書
主観と客観	自分がもらった手紙（愛）	妹宛の葉書を見ていた私
心情の描き方	心情表現あり	心情表現なし（行動で描く）
父の娘への愛情	手紙の中のみ	葉書と行動の両方



参加者の声

- 教材分析≠指導書の理解ではなく、**もっと教材と向き合わねばならない。**
- 教材分析による**指導事項の選択で指導が変わることを改めて実感**できた。
- 本教材をC 工で捉えて展開を考えたことがなかったので、**これまでの自分にはなかった教材分析の視点**が増えた。
- 「この単元はこうだ」という考えから脱し、**自分で、教科で、チームで、地域で勉強**していく時間が必要だと感じた。

